薩摩川内市立
平佐東小学校

児童数　　26人
学級数　　６クラス

《テーマ》

人権尊重の精神に基づいて児童相互の理解を深め，基礎学力を身に付けさせ，差別の不合理さに気付かせ，差別や偏見視しない人間関係の基礎を養う。

研究に当たって（テーマ設定の理由）

心の居場所となる学級づくりのために，人権尊重の視点に立った心に届く指導と小規模校ならではの一人一人を大切にする教育相談の充実を目指した。また，教育公務員としての自覚の高揚のために，教職員一人一人の人権意識・人権感覚を高める校内研修の充実を図った。

研究スケジュール

７月12日（火）職員研修（ＤＶＤ『めぐみ』を使った人権教育の師範授業）
７月20日（水）職員研修（スクールパワハラ講話）
12月２日（金）親子人権教室（SNSとの正しいつきあい方とSOSの出し方講話）
毎月１回「あったかサン」の日を設定

特色ある取組（他校にもおすすめの取組）

□　ＤＶＤ『めぐみ』を使った師範授業

ＤＶＤ『めぐみ』を視聴後，北朝鮮当局による拉致問題についての師範授業を実施した。授業を通して，拉致問題についての知的理解が得られ，自分にできることを考える子供の姿が見られた。

また，授業をどのように進めるとよいか等の示唆を得ることができた。他校からの参観もあり，授業内容を波及する機会となった。

【ＤＶＤ『めぐみ』の授業】

□　職員研修「スクールパワハラ講話」

「人権教育は全ての教育の基本」をテーマに，「スクールパワハラ」についての研修を行った。研修を通して，ＭｏｍＧｓを基に自己チェックを行いながら，教員の言動が子供たちに与える影響について学ぶことができた。

□　親子人権教室「ＳＮＳとの正しいつきあい方とＳＯＳの出し方講話」

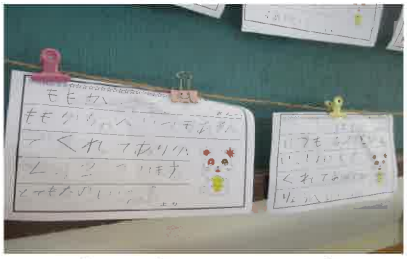
前半は親子人権教室として実施した。ＳＮＳでのやり取りは誤解を生じやすいので言葉を選ぶこと，心がもやもやしたときは，自分が元気になる「もの・ひと・こと」を知っておくことを，授業形式で学ぶことができた。

後半は，保護者を対象にインターネットに起因する人権問題の現状と，子供のＳＯＳのサインには，Ｍｏｍをキーワードに対応するという内容の講話を実施した。

【SNSとの正しいつきあい方とSOSの出し方講話】

□　「あったかサンカード」の取組

毎月１回「あったかサン」の日を設定し，子供同士の嬉しかったことや感謝の気持ちを伝えるメッセージをやり取りする取組を継続している。温かな雰囲気を醸成する「隠れたカリキュラム」の機会となっている。



【「あったかサン」カード】

子どもの人権プロジェクト推進校の取組の成果と課題（子どもの変容，よかったこと，今後やってみたいこと）

□　北朝鮮当局による拉致問題を扱う授業は，これまで難しいとされてきた。しかし，実際に授業を見ることができたので，今後の指導のよいモデルとなった。

□　「スクールパワハラ講話」は，具体的にＭｏｍＧｓを基にしたチェックを行いながら，人権尊重の視点に立って，職員自身の姿を見直すよい機会となった。服務指導と併せながら，今後も心に響く指導を模索していきたい。

□　「ＳＮＳとの正しいつきあい方とＳＯＳの出し方」に関する講話は，生活に身近なＳＮＳが題材だったこともあり，「自分ならどうするか」という視点での活発な意見交換ができた。

また，親子人権教室として開催したことで，親子で同じ学びができ，12月の人権週間に向け，よいタイミングでの指導機会となった。